

教会とサタンとの戦い

ヨハネの黙示録一第二章18節

きょうだいたちは、小羊の血と 自分たちの証しの言葉とによつて この者に勝ち 死に至るまで命を惜しまなかつた。(11)

キリストを証し続ける教会と神に敵対するサタンとの戦いが描かれています。これは当時の教会の人々にとって幻ではなく現実のことでした。ローマ帝国による厳しい迫害の中、彼らはサタンとの戦いを続けていたのです。これは二十一世紀に生きる現代の教会においても同じです。私たちの真の敵は人間を支配する悪しき霊であることを自覚して、教会はこの霊の戦いを戦い抜くことが求められています。そのとき、私たちが同時に弁えるべきことは、この戦いは必ず勝利に終わる戦いであるということです。神はすでに天上においてサタンに勝利されたからです。天で敗北したサタンが地に落とされ、最後の断末魔の叫びをあげているのです。キリストこそ勝利者であることを堅く信じて、地上にあって霊の戦いをたゆむことなく戦い続ける教会でありたいと願います。